



鉛筆を使う、線を引く

少しでも早く受験生の自覚を持ってもらうため、毎年この時期に「高校入試説明会」を実施しています。参加してくれた中3のみなさんお疲れ様でした。保護者の皆様にも客観的な入試データなどご参考になれば幸いです。今年は初めてこの春入試を終えたばかりの高1の2人にも来てもらい、志望校を決めた理由や受験勉強の仕方、そして高校生活の大変なことや楽しいことを語ってもらいました。生の声はきっとみなさんに響いたことでしょう。

さて高校の中間テストが終わり今度は中学のテストです。中3の理科などは2年生の範囲も含まれていて大変ですが、3年で最初に習う「合力、分力」の作図で苦労している人を見かけます。「斜面に平行な力と垂直な力」の大きさの変化などは実際に定規を使って正確に平行線を引くことによって理解できるのですが、定規をしっかり押さえていないのか微妙に線がずれている人がいたりします。「ああ定規で線を引くことやコンパスで円を描くことに慣れていないんだな」と思う場面は、中1の最後に学習する作図の単元でも最近特に感じることです。

もちろん社会に出れば製図はマウスを握ってCADを使いこなせば済むことです。ましてや前月号で話題としたChatGPTを使えば報告書などの文章を書くことさえお任せできるようになるでしょう。しかし、AIに東大の入試問題を解かせる「東ロボ君」プロジェクトで有名な国立情報学研究所教授の新井紀子さんは、もう後戻りはできないとしながらも万能ではないことを強調しています。そしてChatGPTを使いこなせる大人になるためには、鉛筆を使う、消しゴムを使う、定規でしっかり線を引くというような手触りのある体験を積むことの重要性を説いています。体験なしに、例えば平面的なものを立体的に見ようということに無理があるということです。

とは言え、そもそも鉛筆を使うとは正しく持てること。みなさんの手元を見ていると本当にバリエーション豊か。まずはきれいにしかも速く書ける最も合理的な持ち方からマスターしませんか！